

# 南風原小学校

## 学校経営の基軸

南風原小学校

スローガン

志を高く掲げ  
力強く前進する  
南風原小学校

「志」とは夢・希望・目標であり、学校教育目標、学年・学級目標、児童一人一人にとっては、学期のめあてが、「志」であることとらえることができます。また、毎日の授業では、「学習のめあて」も「志」と、とらえられます。

「高く掲げる」とは、志に向かうための道すじであり、見通しをもつこと、計画をたてることです。

次に示す「学校経営の基軸」は、校長の学校経営方針（ビジョン）です。

教育目標を達成するための道すじ（高く掲げる）を示したもので、教職員一丸となって重点的に指導していく十項目です。

そして、「力強く前進する」ためにはチームワーク、連携が重要です。今年度も、チーム南風原として、保護者・地域の皆様と連携しながら、「志を高く掲げ、力強く前進する南風原小学校」をめざします。

### 本校の教育目標

- 自ら学ぶ子
- 思いやりのある子
- 明るく元気な子
- ねばり強くやりぬく子

### 学校経営の基軸（十項目）

#### 一、あいさつ運動の徹底



【説明】  
あいさつ運動を徹底する理由は、「気持ちの良いあいさつは、人間関係づくりの力を育てる基本である。」という考え方に立っています。

気持ちのよいあいさつとは、しっかりと「立ち止まって」、ちゃんと「気をつけて」、「相手の目を見て」おはようございますと言えることです。

校内でもお客さんや保護者の皆さんに会ったら、自分から進んで気持ちの良いあいさつができる子を育てたいと思います。

学校に立ち寄った際、子どもから気持ちのよいあいさつがありましたら、賞賛と励ましの言葉をお願いします。

#### 二、早寝・早起き・朝ごはんの習慣づけ

##### ◎保護者との連携を図る

##### 【説明】

・毎朝六時三十分頃に起きましょう。  
子供の睡眠時間について調べてみると、小学生では「九時間」は取る必要があると言われていました。

また、学校の授業が始まる二時間前に起床することが「学習に対する脳の目覚め」には良いらしい。  
したがって、夜九時三十分までに就寝し、朝六時三十分頃に起きることが理想です。

##### 【寝る時間のめやす】

- ・低学年（九時頃）
- ・中学年（九時三十分頃）
- ・高学年（十時頃）

睡眠は記憶を整理し、定着させ、大脳の情報処理能力を回復させる機能があり、脳は、睡眠でしか疲労回復ができないといわれています。

##### 【朝ごはん】

朝食には睡眠で低下した体温を上げ、脳や体を活性化させるウオームアップ効果があるそうです。朝食を抜くと、脳を栄養失調状態にしてしまうため、気持ちがいらいらしたり、集中力が欠けるといった影響が現れるといわれています。

#### 三、結果にこだわる 学力向上推進

##### 【説明】

学力は向上させてなんぼ、という結果にこだわるのが大切だと考えています。

学校の教育活動は、主に各教科の指導と学校行事等に大きく分けられますが、学校行事は「竹の節、竹林から考えること」（後述）にあるように過程を大切にしている教育活動です。

しかし、各教科の指導については、結果にこだわる教育活動だと考えています。授業で学ぶ内容が分かっているのか、分らないのかを大事にしたいのです。

教師は分かる授業づくりを工夫し補習指導を行ったり、また、子どもたちへは今日の学習の定着を図るために家庭学習を徹底したいと思っています。

##### 《たく習ノートの活用》

家庭学習の時間の確保については、各家庭の協力が大切になりますので次の時間をめやすにして子どもたちを励ましてほしいと思います。

##### （家庭学習の時間のめやす）

- ・低学年（20分以上）
- ・中学年（40分以上）
- ・高学年（60分以上）

#### 四、形から入る学習指導 （生徒指導）

学習指導や生徒指導においては、先ず形から入る指導を大切にし、次に中味（内容）をしつかり教えていくことにします。

##### 【説明】

人間が行動するには、先ず、頭（心）で考え、次に言葉で表し、そして実行するという過程を踏みます。

「形」とは、外見に現れた姿、格好のことを意味します。ということとは、外見をみればその人の心構えがおおよそ分かります。ここでいう外見とは、学習に向かう姿勢や服装などを意味しています。

例えば、体育の時間に体育着を着ていない、算数や国語の時間に座る姿勢が崩れている、学習用具が揃っていないなどはその姿（外見）から学習に向かう気持ちがいまいち現れていないことにつながります。

学習に向かう姿勢や集団行動の仕方、あいさつの仕方、言葉づかいなど外見に現れる行動や態度からその人の心構えが伝わってくるからです。

「型より入りて、型より出ずる」

## 五、校内研修の充実

本校児童の実態や学校の課題を明確にし、よりよい改善を図るため、全教職員が共通の研究テーマを取り上げ、一年間を通して研究を深めていきます。

【説明】

本校は、南風原町が文部科学省の道徳の研究推進地域指定となったことを受けて、2年間「主体的・対話的で深い学び」を実現する道徳教育の取組について道徳教育の改善・充実を積み重ねながら、全校体制で取り組んできました。

今年度は、その研究成果を生かしながら道徳科の授業の中で、地域教育資源も生かし、主体的に学び、道徳的価値を自分の事として理解し、物事を多面的・多角的に深く考え、議論する道徳教育のあり方に視点を置き、自己の生き方等についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てていきます。

（今年度の研究テーマ）

「思いやりの心を育む道徳教育の取組」

## 六、良い学級、楽しい学級づくり

なぜ学級づくりは重要なのか。

【説明】

- ・学級は学校教育の基礎単位だから。
- ・学級は子供の学校生活の拠点だから。

- ・学級は学習指導の単位集団だから。
- ・学級は、教師と児童、児童相互の触れ合いの場だから。
- ・学級は、学校と家庭の連絡結合の接点だから。

以上のことから、学校における学級の位置づけ、重要性は容易に理解できます。学校が立派である、ということとは立派な学級がそろっているからであり、良い学級が育っていないところに学校教育の進展は望めないと考えるからです。



## 七、特別支援教育の充実

【説明】

心身に障がいを持つ児童は、その障がいを改善・克服していくために、普通教育をもとにしながら、個に応じた指導を保障しなければなりません。

本校では、それら児童の特別なニーズを把握し必要な教育支援を行い、一人一人の能力を最大限に伸ばし、自立や社会参加のための基盤を培うことをねらいます。その具体的な取り組みとして、

- ① 個別の教育支援計画を作成します。
- ② 交流学習（協力学級）を重視します。
- ③ 教職員全員の支援体制で臨みます。
- ④ 特別支援教育保護者会を行います。

## 八、いじめがなく思いやりを見せる学校

【説明】

保護者が安心して子どもを行かせる学校は、いじめがない学校です。そこから

信頼される学校は始まるのだと考えています。

同時にまた、本校では全ての職員が「いじめは、どの学校・どの学級でも起こりうるものである」という基本認識にたち、全校児童が「いじめのない、明るく楽しい学校生活」を送ることができるよう、日頃から子ども達の遊びや遊び方、遊ぶ場所を観察し、安全指導と併せて、いじめについても常に気を配っていきます。

いじめとは、「当該児童が、一定の間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」とする。個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童の立場に立つて行うものとする。  
（南風原小学校いじめ防止基本方針）

## 九、キャリア教育の充実

【説明】

キャリア教育とは、一人一人の社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育です。

小学校は、低学年、中学年、高学年と成長が著しく、社会的・職業的自立の基盤を形成する重要な時期です。遊びや家での手伝い、学校での係活動、清掃活動、児童委員会活動、勤労生産的活動、地域での活動の中で、自分の役割を果たす意欲や経験が重要です。

小学校におけるキャリア発達課題をふまえて、教育活動の中で、計画的に指導していきます。

- ① 小学校生活への適応
  - ② 身の回りの出来事への関心
  - ③ 好きなことを見つけて活動
- 低学年  
中学年

- ① 友達と協力して活動
  - ② 持ち味を発揮し役割を果たす
- 高学年

- ① 自分の役割や責任を果たす喜び
- ② 集団の中で自分を生かす

## 十、竹の節、竹林から考えること

【説明】

竹は台風のような強風でも、雪の重さにもしなやかに並び、途中からボキリと折れたりすることはありません。

何故、竹はそのように強いのでしょうか。それは、竹には「節」があるからだと思えます。

教育活動にたとえると、学校行事がその竹の節にあたるのではないかと考えています。

一年を通して学校行事をみると、始業式・終業式の学期毎の区切り、その他には運動会や学習発表会などの大きな学校行事があります。

特に、運動会や学習発表会等では楽しいことも多いですが、苦しいことやつらいことも、努力しなければならぬことも多いと思えます。このような学校行事を通して味わう色々な思い（体験）は竹の節にたとえることができるのではないのでしょうか。

子ども達がどんなときにも苦しみを乗り越えていくこの体験が多いほど竹のようたくましい節を作り、しなやかな人間に成長していくと思えます。

南風原小学校で学ぶ子どもたちには、どんな困難なことに直面しても自分で考え、正しく判断し、意欲的に行動できる人間に育ってほしいと願っています。



-----

-----

-----